

古河電工あかがね会～地域だより

## 三重県亀山市で日光和楽踊りの披露企画

三重亀山市地方幹事

渡邊佐智男

問合せ先

令和2年9月に三重県亀山市文化会館の大ホールに於いて、『日光和楽踊り』と『花笠音頭（岩手県）』を披露する予定で、

今年の1月より実行委員会を立ち上げ、和太鼓チームとのコラボを企画しました。

DVD（音源）は日光事業所の総務課長の塚本様からお借りし、踊りの指導は元日光事業所総務課の方をお願いをしました。

花笠は岩手県より取り寄せ、踊り手さん10名と実行委員を合わせた約20名での練習を重ねてきました。

また当日は、文化会館の音響や照明による演出のご協力も、披露をさせていただく準備も進めてまいりました。

ところが7月になると、新型コロナ感染拡大防止策による亀山市文化会館の使用自粛が決定され、

残念ですが本企画は中止となってしまいました。残念でしたが、この企画は来年に延期となりになりました。



踊り手の皆さん



## 日光和楽踊りの歴史

日光和楽踊りは、古河電気工業日光事業所の中で行われます。この事業所は、古河鉱業日光電気精銅所として明治39年に創業開始。

日光には、大正天皇の静養のために建てられた田母沢御用邸があり、天皇家とゆかりがありました。そして、大正2年9月6日、精銅所は、**天皇行幸の誉れを得ます**。

翌、9月7日には突如の皇后行啓も実施されました。そんな緊張感に満ち満ちた行幸啓も無事に終了。**「和楽踊り」**と名づけて、ついに踊りが実施されました。

和楽とは、当時の精銅所精神の3項目のうちの1つ、「**協同和楽の精神**」からとられています。

盆踊りがレコードなどを通じて、青年会や婦人会の主催で、全国各地で行われるようになり始めたのは昭和30年代ころからですが、そんな影響や、娯楽の拡大に伴い、和楽踊りは昭和50年代になると、社員数の減少や、社宅を選ばず遠方からの通勤をする人の増加などで、踊り参加の社員数が減少、その一方で観光客の参加が増加していきます。

若い人の好みにより、踊りのアレンジなども行われてきます。

そんな環境の中でも和楽踊りは脈々とうけつがれ、現在は、**毎年8月第一金曜日に実施**されています。その日は、工場構内が開放され、社員と地元の方、観光客が一体になって踊りを盛り上げています。また、工場の中には、明治時代や大正時代、昭和初期の建築物が残されており、行幸啓当時の様子をしのばせています。

(※インターネットからの拾い読みから)

